

「ヨシユ」  
聖徒伝 65

# 「真実の贖いの 大祭司イエス」

ヨシュア記20～22章

逃れの町・レビ族の相続地

## 【今日のアウトライン】

0. イン트로ダクション

I. 逃れの町 20章

II. レビ族の町 21章

III. ヨルダン川東岸部族の背教疑惑 22章

IV. まとめと適用

真実の大祭司イエスを仰ぎ見つつ

万人祭司・世の寄留者として歩む



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪  
~大洪水

バベルの塔事件

アブラハム  
~ヤコブ

イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

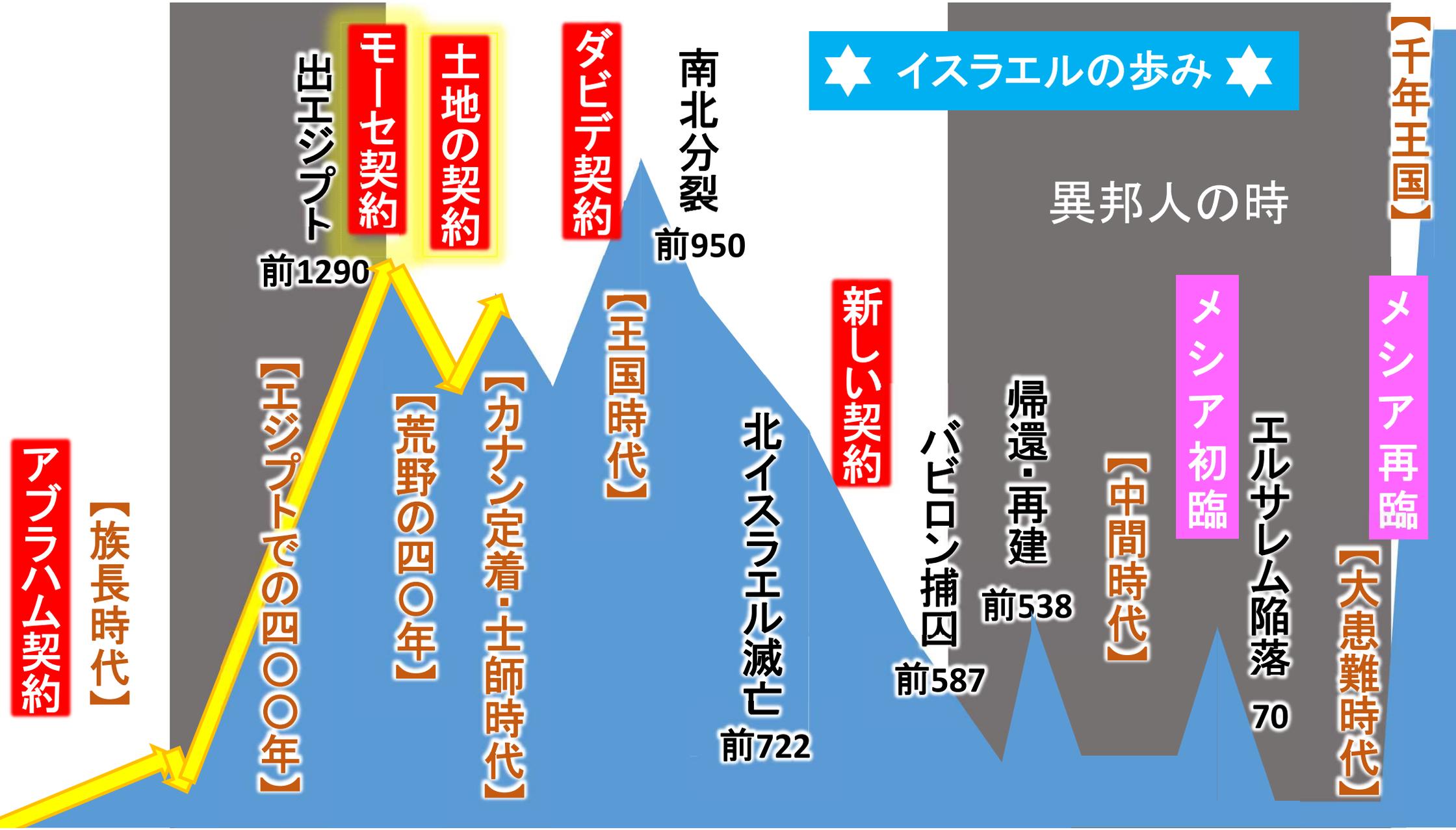
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

前1290

出エジプト

モーセ契約

土地の契約

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落

70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

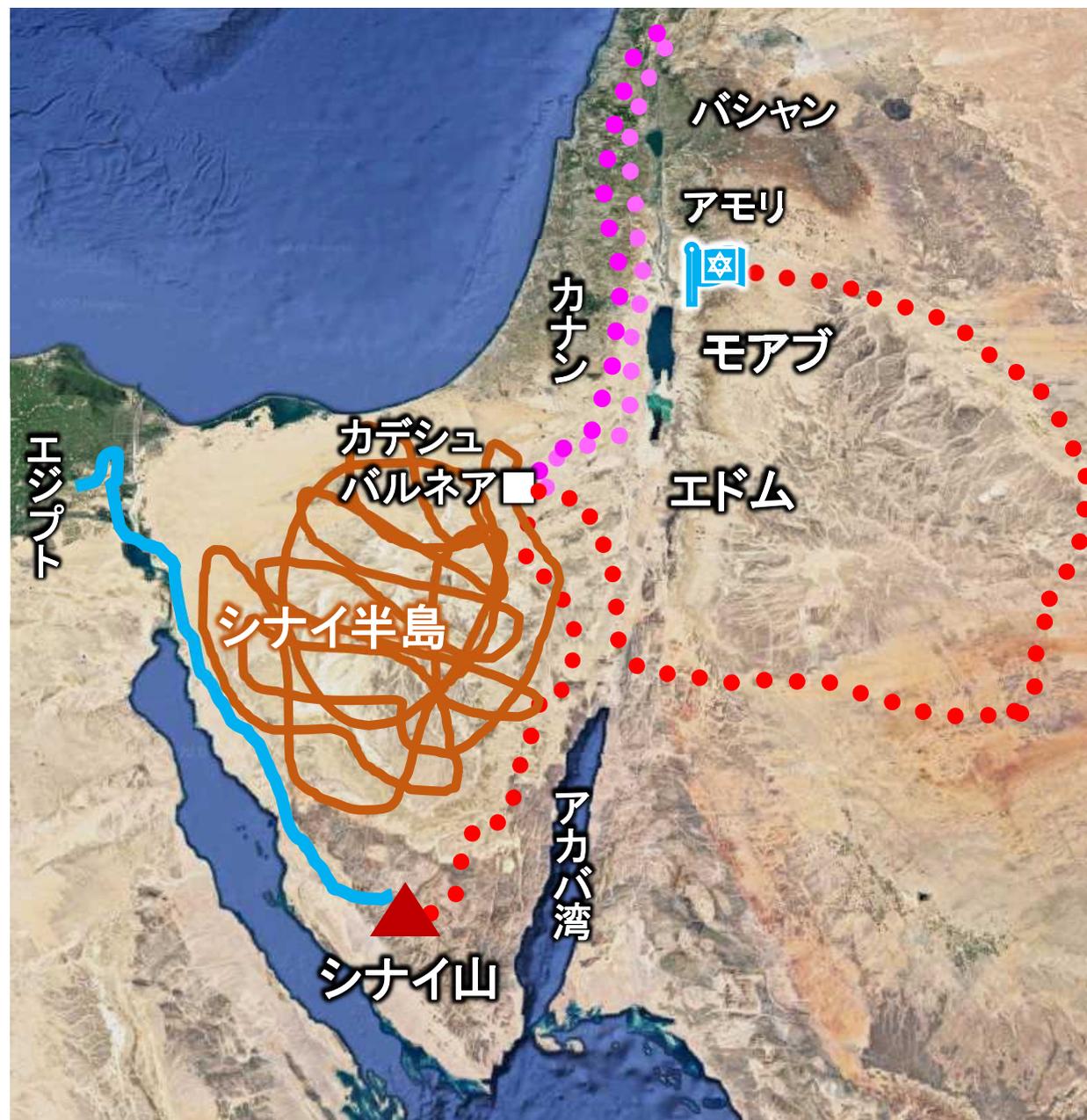
## 【イスラエルの荒野の40年】

■ エジプトを脱出、シナイ契約を結び、律法を与えられ、神の民となったイスラエル。

■ しかし、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えた。

■ 40年の放浪の末、約束の地ヨルダン川東岸に到達した。

■ カナンの東部を征服し、いよいよヨルダン川を渡った。



## 【戦術的に見る、カナン征服戦争】 1～13章

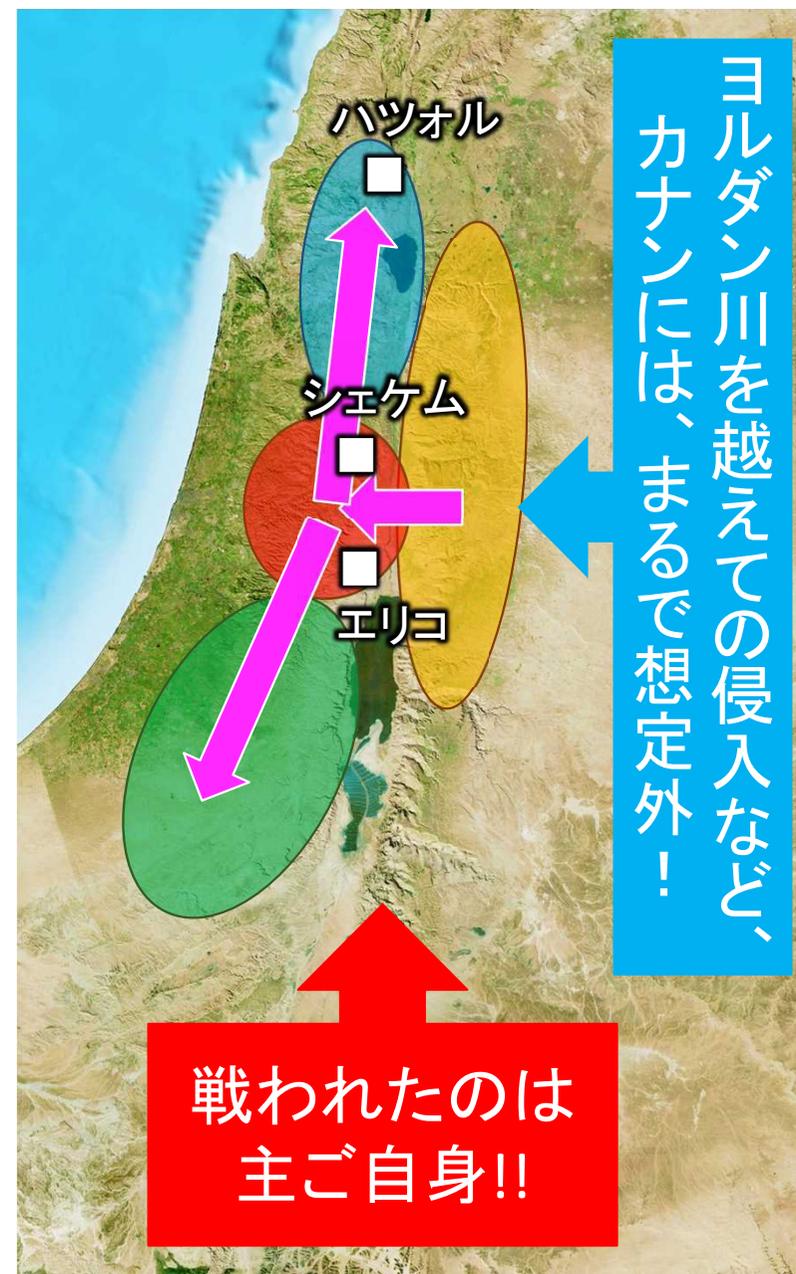
■ カナンの戦いは基本的に攻城戦。

城壁で囲まれた町々を攻略していった。

➡ 通常、膨大な戦力と物資、時間が必要。  
前の砦を落とさなければ、進めない。

■ イスラエルの進軍ルート

- ① ヨルダン川東部 ➡ 後顧の憂いをなくす
- ② 中央部 ➡ 干上がったヨルダン川を渡り、  
不意を突き、最大勢力を撃破  
中央部を押さえ、敵勢力を分断
- ③ 南部 ➡ 南部の諸民族を撃破
- ④ 北部 ➡ 北部の諸民族を撃破



## 【残された地】 ヨシュア13:1~2

ヨシュアは年を重ねて老人になっていた。

【主】は彼に告げられた。「あなたは年を重ね、老人になった。しかし、占領すべき地は非常にたくさん残っている。

残っている地は次のとおりである。」

■ エリコの戦いから5年。ヨシュアは85歳。

■ アブラハムに約束された地は、  
南はナイルの支流から、  
北は、ユーフラテスに至るまで

すべてを支配するのは、千年王国において



## 【割り当てられた相続地】 ヨシュア14:1～5

イスラエルの子らがカナンのでゆずりとして受け継いだのは、次のとおりである。祭司エルアザルと、ヌンの子ヨシュアと、イスラエルの子らの部族の一族のかしらたちは、その地を彼らに相続地としてくじで割り当てた。【主】がモーセを通して、九部族と半部族について命じられたとおりである。

- 14章以降、相続地の分割が記される。
- 12部族それぞれに、分割地が定められた。
- レビ族だけは例外。祭司や奉仕者として、神に直接仕えるレビ族には、神ご自身が嗣業。



# I. 逃れの町

ヨシュア記20章

ヨルダン川東岸山地

## 【逃れの町の建設】 ヨシュア20:1～3

【主】はヨシュアに告げられた。

「イスラエルの子らに告げよ。『わたしがモーセを通してあなたがたに告げておいた、逃れの町\*を定めよ。意図せずに誤って人を打ち殺してしまった殺人者が、そこに逃げ込むためである。血の復讐をする者\*から逃れる場所とせよ。』

\* 逃れの町 ...民数記35章に律法の規定がある。  
過失致死を犯した者が、逃れる町。

\* 血の復讐をする者 ...ゴエル。“贖う者”  
親族の売られた土地を買い戻し、殺された家族の命を死をもって贖う責務があった。

モーセへの律法の命令が  
実行された！！

幕屋が張られていたシロ



## 【逃れの町の門で】 ヨシュア20:4～5

人がこれらの町の一つに逃げ込む場合、その人はその町の門\*の入り口に立ち、その町の長老たちに聞こえるようにその事情を述べよ。彼らは自分たちの町に彼を受け入れ、彼に場所を与える。そして彼は彼らとともに住む。

たとえ血の復讐をする者が彼を追って来ても、その手に殺人者を渡してはならない。彼は隣人を意図せずに打ち殺してしまったのであって、前からその人を憎んでいたわけではないからである。

\* **町の門** ...町の行政・司法機関が置かれていた

■ **殺人に対する贖い。罪人への憐れみ。**

神の義と愛の表れが、逃れの町。



## 【大祭司の死による贖い】 ヨシュア20:6

その人は会衆の前に立ってさばきを受けるまで\*、  
あるいはその時の大祭司が死ぬまで\*その町に住  
む。その後で、殺人者は自分の町、自分の家、自  
分が逃げ出した町に帰って行くことができる。』

\* 法による裁判が重視された。

\* 大祭司の死によって、贖いがなされた。

■ 究極の大祭司は、来たるべきメシア・キリスト  
究極の贖いは、メシアによって成し遂げられる。



## 【逃れの町の置かれた地】 ヨシユア20:7~8

### ■ヨルダン川東岸 北から南へ

彼らはナフタリの山地のガリラヤのケデシュ、エフライムの山地のシェケム、ユダの山地のキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンを聖別した。

### ■ヨルダン川東岸 南から北へ

ヨルダンの川向こう、エリコの東の方ではルベン部族から台地の荒野のベツェルを、ガド部族からギルアデのラモテを、マナセ部族からバシヤンのゴランをこれに当てた。

地理的距離に従って均等に六の町が建設された



## 【逃れの町の規定の対象】 ヨシュア20:9

これらはすべてのイスラエルの子ら、および彼らの間に寄留している者のために\*設けられた町である。すべて、誤って人を打ち殺してしまった者がそこに逃げ込むためであり、会衆の前に立たないうちに、\*血の復讐をする者の手によって死ぬことがないようにするためである。

\* 寄留の異国人も対象 ... 奴隷にしたカナン人も！

\* 会衆の前に立つ ➡ 正式な裁判を受けること

■ 律法の恵みは、寄留する異邦人にも及んだ。

律法による秩序がイスラエルに求められた。



## Ⅱ. レビ族の町

ヨシュア記21章



ヘブロン**のぶどう畑**

## 【レビ人の居住地】 ヨシュア21:1～3

レビ人の一族のかしらたちは、祭司エルアザル、ヌンの子ヨシュア、そしてイスラエルの人々の部族の、一族のかしらたちのところに近寄って来て、カナンの地のシロで彼らに告げた。「【主】は、住む町と家畜の放牧地を私たちに与えるよう、モーセを通して命じられました。」イスラエルの子らは【主】の命により、自分たちの相続地から次の町々とその放牧地をレビ人に与えた。

■ 12部族の相続地分配後、レビ族の町が定められた。

主ご自身が嗣業であるレビは、世では寄留者。

→クリスチャンもまた、この世にあっては寄留者。



クリスチャンの  
故郷は天にある!!

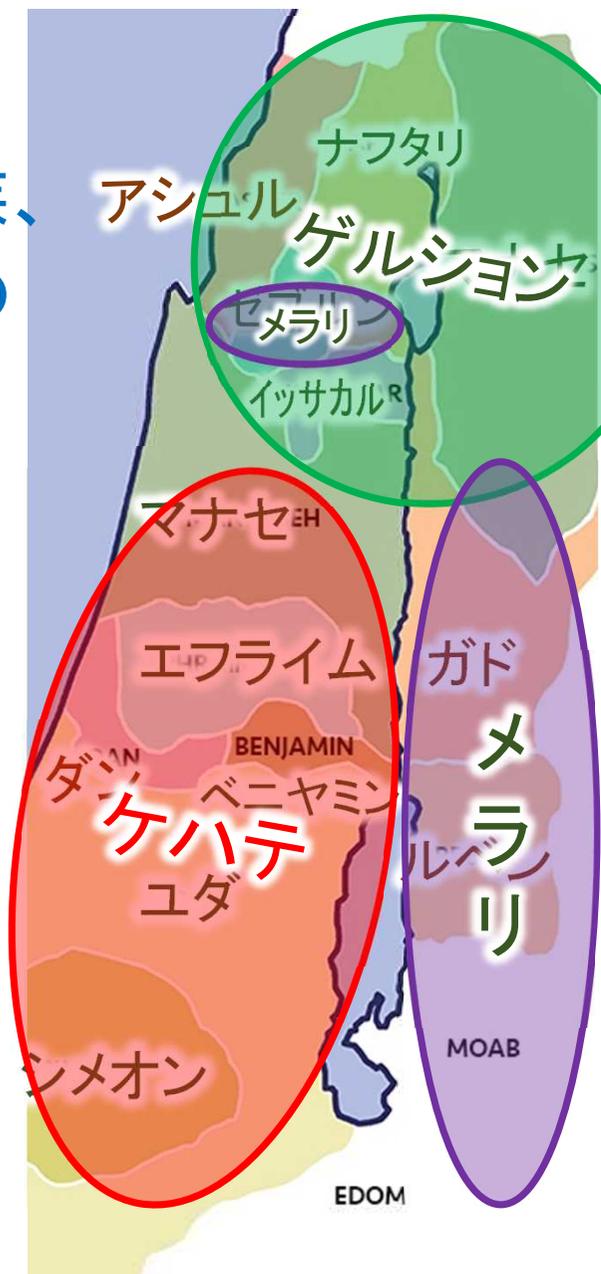
## 【レビ族の三つの諸氏族の町々】 ヨシュア21:4～7

① **ケハテ人諸氏族**のためにくじが引かれた。ユダ部族、シメオン部族、ベニヤミン部族から、くじによって十三の町がレビ人の祭司アロンの子らのものになった。

エフライム部族の諸氏族、ダン部族、マナセの半部族から、くじによって十の町が、残りのケハテ族のものになった。

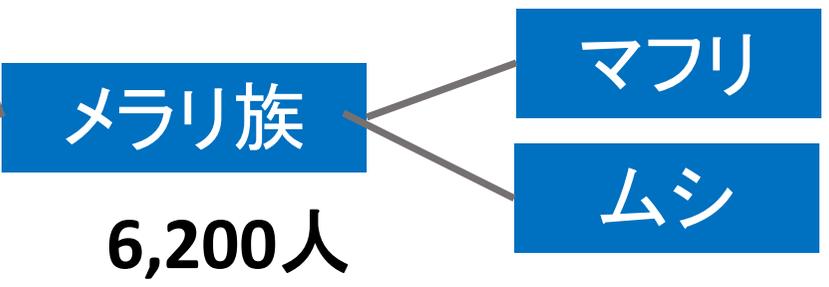
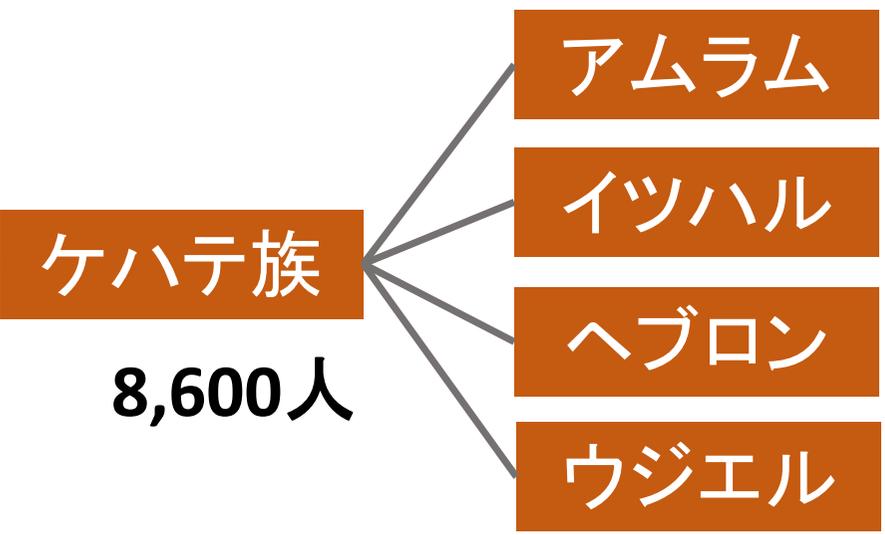
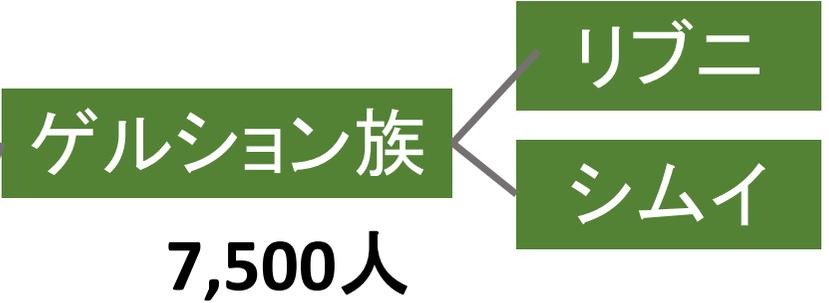
② イッサカル部族の諸氏族、アシェル部族、ナフタリ部族、バシヤンのマナセの半部族から、くじによって十三の町が**ゲルシオン族**のものになった。

③ ルベン部族、ガド部族、ゼブルン部族から、十二の町が**メラリ人**の諸氏族のものになった。



【レビ族の  
系譜・役割】  
民数記3～4章

**レビ人**  
22,000人  
■ 生後1ヶ月以上  
**(8,580人)**  
■ (30～50歳)



モーセ  
アロン

幕の運搬  
**(2,630人)**

祭司  
祭具の運搬  
**(2,750人)**

板・台座の運搬  
**(3,200人)**

## 【アロン・祭司の町・ヘブロン】 ヨシユア21:10～13

これらは、レビ族に属するケハテ人諸氏族の一つ、**アロンの子ら**のものになった。最初のくじが彼らに当たったからである。彼らにはユダの山地にあるキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンとその周囲の放牧地を与えた。アルバはアナクの父である。

しかし、この町の畑と村々はエフンネの子カレブに、その所有地として与えた。**祭司アロンの子ら**に与えられたのは、殺人者の逃れの町ヘブロンとその放牧地…。

- 祭司アロンの一族には、ユダ族カレブが勝ち取った町ヘブロンに居住地が与えられた。

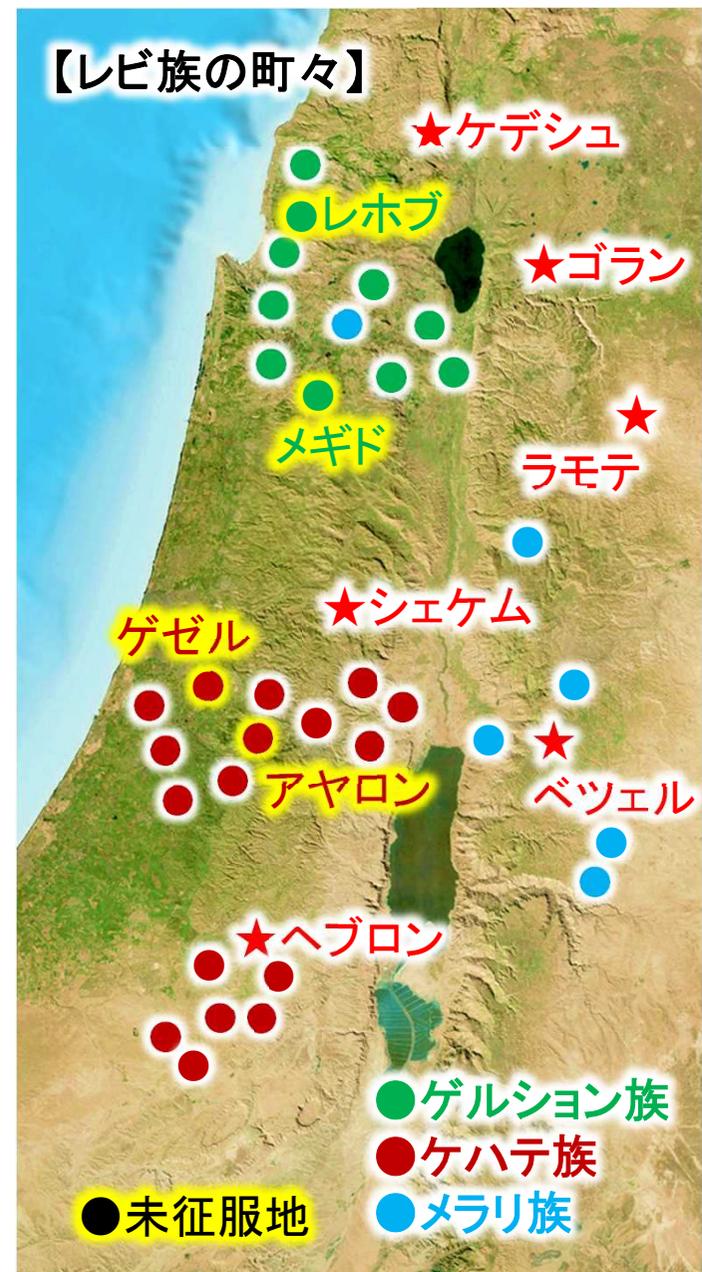


【決定されたイスラエルの地】 ヨシユア21:43～45

【主】は、イスラエルの父祖たちに与えると誓った地をすべて、イスラエルに与えられた。彼らはそれを占領し、そこに住んだ。

【主】は、彼らの父祖たちに誓ったように、周囲の者から守って彼らに安息を与えられた。すべての敵の中にも、一人として彼らの前に立ちはだかる者はいなかった。【主】はすべての敵を彼らの手に渡された。【主】がイスラエルの家に告げられた良いことは、一つもたがわず、すべて実現した。

私たちへの神の約束も、  
主の目には、一つも違わず実現している。



# Ⅲ. ヨルダン川東岸部族の背教疑惑

ヨシュア記22章

ヨルダン川東岸の丘



## 【戦い通した三部族】 ヨシュア22:1～4

そのとき、ヨシュアはルベン人、ガド人、およびマナセの半部族を呼び寄せて、彼らに言った。

「あなたがたは、【主】のしもべモーセがあなたがたに命じたことをことごとく守り、私あなたがたに命じたすべてのことについても、私の声に従った。

今日まで、この長い間あなたがたの兄弟たちを捨てず、あなたがたの神、【主】の命令に対する務めを果たしてきた。

今あなたがたの神、【主】は、約束したとおりに、あなたがたの兄弟たちに安息を与えられた。

- ヨルダン川東岸に先に相続地を得ていた三部族は、誓約通り、全イスラエルが土地を得るまで共に戦った。



ヨルダン川東岸

## 【三部族の帰還】 ヨシュア22:4～6

今、【主】のしもべモーセがヨルダンの川向こうであなたがたに与えた、自分たちの所有地、自分たちの天幕に引き返しなさい。

ただ、【主】のしもべモーセがあなたがたに命じた命令と律法をよく守り行い、あなたがたの神、【主】を愛し、そのすべての道に歩み、その命令を守り、主にすぎり、心を尽くし、いのちを尽くして主に仕えなさい。」  
ヨシュアが彼らを祝福し、送り出したので、彼らは自分たちの天幕に行った。

- モーセは、ただ律法に従い通すことだけを求め、三部族は、家族が待つ自分たちの天幕に帰った。



ヨルダン川東岸

## 【祝福を受けての三部族の帰還】 ヨシュア22:7

マナセの半部族にはモーセがバシヤンに所有地を与えたが、残りの半部族には、ヨシュアがヨルダン川の反対側、すなわち西の方に、彼らの兄弟たちと並んで所有地を与えた。ヨシュアは彼らを天幕に送り出すとき、彼らを祝福して、こう言った。「あなたがたは多くの財、つまり、非常に多くの家畜と銀、金、青銅、鉄、たくさんの衣服を持って天幕に帰りなさい。敵からの分捕り物はあなたがたの兄弟たちと分け合いなさい。」

ルベン族、ガド族、マナセの半部族は、カナンの地にあるシロでイスラエルの子らと別れ、モーセを通して示された【主】の命により、彼らが得た自分の所有地、すなわちギルアデの地へ帰って行った。



主に従う者には祝福がある

【巨大な祭壇を築いた三部族】 ヨシュア22:10～12  
ルベン族、ガド族、マナセの半部族はカナンの地の  
ヨルダン川の流域まで来たとき、そこ、ヨルダン川の  
そばに一つの祭壇を築いた。それは遠くから見える  
ほど大きな祭壇であった。

イスラエルの子らは、「ルベン族、ガド族、マナセの半  
部族がカナンの地の国境、ヨルダン川のイスラエルの  
子らの側の流域に、祭壇を築いた」と聞いた。

イスラエルの子らがそれを聞いたとき、イスラエルの  
全会衆は彼らと戦おうとシロに集まった。

- かつて人類は、バベルの塔を築いて神に背いた。  
巨大な祭壇は、偶像礼拝に陥ったしるし？



幕屋が張られていたシロ

## 【祭司ピネハスの警告】 ヨシュア22:13～20

- イスラエルは、東岸の三部族に、祭司ピネハスと西岸の十部族のかしらを代表として送った。
  - イスラエルがヨルダン川東岸で、ミディアン人に誘惑され偶像礼拝に陥ったとき、罪を犯した同胞を激怒して刺し殺したのがピネハス。主に忠実な祭司だった。
  - ピネハスは、ヨルダン川東岸でイスラエルが犯した罪と、最大の犠牲者を出した神の裁きを語り、厳しく警告した。
- 22:17 ペオルでの不義は、私たちにとって小さなことだっただろうか。私たちは今日まで、あの不義から身をきよめていないではないか。そのために神の罰が【主】の会衆の上  
に下ったのだ。

裁きの記憶は生々しく残っていた



ヨルダン川東岸

【ルベン、ガド、マナセ半部族の弁証】 ヨシュア22:21～25  
「神の神、【主】よ、神の神、【主】はご存じです。イスラエルもこれを知りますように。」

- 三部族は、主への信頼の上に、主の御名をもって弁証を始めた。切実な呼びかけは、同胞への愛も含むもの。
- 三部族は、反逆や不信仰が動機なら裁きを受けても仕方ないと、覚悟を持って話し始めた。
- 三部族が恐れたのは、地理的な隔たりゆえに、子孫達が、イスラエルの同胞からも隔たってしまうこと。そして、神からも離れ、イスラエルの神に背くこと。



## 【三部族の弁証】 ヨシュア22:26～29

私たちは考えました。後になって、もし私たち、また私たちの子孫がそう言われたとしても、私たちはこう言うことができる。『私たちの父祖が造った【主】の祭壇の型を見よ。これは全焼のささげ物のためでもなく、いけにえのためでもなく、私たちとあなたがたとの間の証拠\*なのだ』と。私たちが、主の幕屋の前にある私たちの神、【主】の祭壇のほかに、全焼のささげ物や穀物のささげ物や、いけにえを献げる祭壇を築いて、今日、【主】に反逆して【主】に従うことをやめるなど、絶対にあり得ないことです。」

■祭壇は、神の民であることの記念であり、確かな証拠。



## 【保たれた民の絆】 ヨシュア22:30～34

22:31 エルアザルの子、祭司ピネハスはルベン族、ガド族、マナセ族に言った。「今日、私たちは、【主】が私たちの中におられることを知った。あなたがたが【主】の信頼を裏切らなかったからである。あなたがたは今、イスラエルの子らを【主】の手から救い出した。」

**民同士の争いは避けられ、絆は深められた**

■ピネハスら派遣団は、三部族の弁証に満足した。

報告を聞いたイスラエルの民も満足し、神を讃えた。

22:34 ルベン族とガド族はその祭壇に「これは私たちの間での、【主】が神であることの証しだ」と言って名をつけた。



## IV. まとめと適用

真実の大祭司イエスを仰ぎ見つつ  
万人祭司・世の寄留者として歩む

ゴラン高原からのガリラヤ湖



【「逃れの町」は、イエス・キリストの救いを示す型】

■ヨルダン川東岸で、モーセを通して命じられた「逃れの町」が建設された。

■「逃れの町」は、誤って人を殺めた者を、贖いの死から救う町。

大祭司の死によって、その人は、永久に罪を贖われた。

■義なる神によれば、罪には罰が避けられない。

しかし、愛なる神は、ご自身の怒りからの救いの道を与えられた。

■真の大祭司、メシア・キリストなるイエスの死によって、

私たちの罪はあがなわれ、御国での永遠の相続地が約束されている。

【世の寄留者なるレビ族、そして、私たちクリスチャンも】

■レビ族に、相続地は与えられなかった。

神に仕えるレビ族には、神ご自身が嗣業であるから。

■世にあっては寄留者であるレビ族は、永遠に神に仕える神の嗣業。

■クリスチャンは、すべての人が神に仕える祭司である。

クリスチャンは、世にあっては寄留者。試練も苦難も避けられない。

■しかし、来たるべき神の国では、永遠の相続地が約束されている。

クリスチャンにとっても、神ご自身が、嗣業であり、相続地。。

【帰るべき故郷を約束された旅人として、与えられた人生を味わおう】

■ 信仰は、将来に希望を置き、今に向き合う底力。

決して、現実逃避の手段ではない。

■ 旅を味わうためには、一つ一つの現実的な対処も必要。

■ ただ福音を信じて救われた私は、永遠に主のものとしてされている。

その恵みを確認しよう。喜びをもって、寄留者として今を過ごそう。

■ クリスチャンは、旅人であって、行く当てのない放浪者ではない。

旅人が、放浪者と違うのは、帰るべき故郷が約束されていること。

だからこそ、困難の中でも、旅を味わい、楽しんでいくことができる。

■ 変えるべき故郷が約束された旅人として、今を味わい、歩んでいこう。

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

まことの大祭司(だいさいし)イエスにより、わたしは、神の怒(いかり)から救(すく)われました。

わたしは、世にあっては寄留者(きりゆうしゃ)ですが、御国(みくに)で、永遠(えいえん)の相続地(そうぞくち)が 約束(やくそく)されています。

帰(かえ)るべき故郷(こきょう)が 約束(やくそく)された 旅人(たびびと)です。今、この人生(じんせい)を 存分(ぞんぶん)に味(あじ)わわせてください。

あなたの使命(しめい)に押(お)し出(だ)してください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」